

令和5年度 第4回 長浜市未来こども若者会議 会議録【公開用】

日 時 令和6年1月29日（月）14時～16時10分

場 所 長浜市役所1階 多目的ルーム1～3

出席者 【委員】 西川委員、大橋委員、北村委員、鎌田委員、一色委員、宇留野委員
山岡委員、柏崎委員、中川委員、山内委員、宮本委員、澤委員
荒井委員

【事務局】 未来創造部：中嶋部長、森次長
未来こども若者局：村崎局長、山口管理監、為永管理監
稲葉課長代理、服部副参事、茂森副参事
こども家庭支援課：平塚課長、伊吹課長代理
こども家庭支援課家庭児童相談室：森室長
健康推進課：小嵯課長、守本課長代理
幼児課：今田課長、奥村参事、政策デザイン課：山崎副参事
市民協働部：藤田次長、教育委員会事務局：東野次長
Next-i株式会社：松浦氏

【未来こども若者政策推進本部ブラッシュアップ部会】人権施策推進課：脇坂主事、
市民課：下村主事、しょうがい福祉課：伊藤主事、住宅課：川村主事、
幼児課：七里主事、市立長浜病院事務局医事課：阪東主事

欠席者 【委員】 水上委員、小幡委員

傍聴者 なし

《開会》

【事務局】 定刻になりましたので、始めさせていただきます。みなさん、こんにちは。これより令和5年度第4回になります長浜市未来こども若者会議を始めさせていただきます。みなさま、お忙しいなかお集まりいただきまして、ありがとうございます。

会議が始まります前に、まず規則によりまして、委員の過半数の出席が必要となります。本日、水上委員、小幡委員がご欠席です。委員15名中13名、過半数の出席となり、会議が成立しておりますことを、ご報告させていただきます。

また、本会議は公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、長浜市未来創造部長中嶋よりごあいさつ申し上げます。

《開会あいさつ》

～中嶋部長より開会のあいさつ～

市の中でも数少ないおもしろい会議となっておりますので、今日も楽しみにしております。

た。いよいよこども大綱も出まして、こどもまんなか社会や計画について考えていくことになります。大人第一社会、お年寄り第一社会が変わっていくのかなと思います。最前線で議論する我々が、こどもの気持ち、若者の気持ちになりきって進めていくことが大事だと思っております。今日もそのようなプログラムがありますので、是非、楽しみながら進めたいと思っておりますので、今日も活発な議論をどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】ありがとうございました。それでは議事に入ってまいります、その前に一点ご報告をさせていただきます。

【こども家庭支援課長】会議の貴重な時間をいただきまして、ご報告をさせていただきます。昨年7月にプールの事故がありました。市としまして検証委員会を立ち上げまして、昨年6回の会議を経て、1月9日に検証委員会から、市に検証報告書を提出いただきました。それを受けて市では、再発防止策を今年度中にまとめるよう、現在検討している段階です。本日、詳しい資料はございませんが、ホームページに検証報告書を掲載しておりますので、ご覧いただけたらと思います。今後も対策をしっかりとしていきたいと思っております。

【事務局】ありがとうございます。それでは議事の方を進めてまいります。本日の会議は16時終了を予定しております。ご協力いただきますようお願いいたします。それでは会議規則第4条第2項の規定に基づき、会長が会議の議長になるとありますので、ここからの進行につきましては、会長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

《議事》

【会長】それではみなさん、こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。座らせていただきます。大雪でなくてよかったです。

それでは、議事を進行したいと思っております。まず、(1)こども大綱について、事務局からご説明をお願いします。

～事務局説明資料1～

【会長】はい、ありがとうございました。やっとこども大綱が出ましたね。だいたいの概要はわかっていたのですが、具体が出てまいりました。今の事務局のご説明に対しまして、ご意見やご質問はありますでしょうか。

今までもこのあたりのことを含んでお話しただいておりましたので、また、ご質問等ありましたら、随時出していただけたらと思います。

では、次に進みたいと思っております。(2)のアンケートについて、事務局から説明をお願いします。

～事務局説明資料2～

【会長】はい、ありがとうございました。概要のご説明がありましたけれども、ご意見ご質

問いかがでしょうか。ありましたらお願いします。

具体的なアンケート内容はまだですね。

【事務局】こども大綱が12月22日に出まして、その指標を盛り込んだ保護者向けアンケートの質問項目を、関係課も含めて作業を進めております。今日の会議で共有できるとよかったです。間に合いませんでした。2月の中旬から下旬にかけてアンケートを実施させていただきたいと思っておりますので、委員のみなさんには、明日明後日ぐらいに、アンケート項目の資料をメールで送らせていただきますので、内容の方をご確認いただいて、こういうことを聞いた方がいいのではないかと、この聞き方はよくないのではないかと等、いろんなご意見を1週間程度でいただけたらと思っております。いただいたご意見をアンケート項目に反映させた状態で、保護者向けアンケートを実施したいと考えておりますので、そのようなスケジュールでお許しいただければと思います。

【会長】はい、ありがとうございます。アンケートの実際の物を今日はご検討いただけないということで、明日明後日にはできそうな感じですけど、大変タイトなスケジュールですけど、いかがでしょうか、ご意見ご質問。

私の方からですが、こども若者向けのアンケートを実施されているということで、回収率も幅広いのですが、学校にお願いしたとか、若者だったらペーパーで郵送したとか、それとも今だったらネットで答えられるとか、いろいろな方法をとられていると思いますが、わかる範囲で教えていただけますか。

【事務局】はい、中学校と高校については、学校にお願いしまして、QRコードを讀んでいただいて、アンケートに答えていただく形をとらせていただきました。高校生の方は、休みに入る前だったということもありまして、回答率低くなっておりますけれども、高校を通じてお願いさせていただいた形になります。

市内在住の18歳から39歳につきましては、抽出させていただいた方にハガキを送らせていただいております。ハガキのQRコードから讀んで、アンケートにお答えくださいという形にさせていただきましたが、回答率20%を切っているということで、もともとこの年齢層というのは、回答率が低い年代だということは把握していたんですけども、実際に少なかったという印象です。

転出者のアンケートにつきましては、市の方で対象者を把握できませんので、人づてに口コミで広げていく方法をとりました。これも本当はもう少し人数がほしかったのですが、234人の方にオンラインで回答いただいた形になります。

成人式も同様で、成人式のしおりにアンケートに答えてくださいと、QRコードをつけさせていただいて、こちらもなかなか回答数が少ないんですけど、64人の方にお答えいただきました。

養護学校につきましては、学校と相談させていただき、ペーパーでということになりました。学校から配布させていただいて、学校で回収したものを、市にいただいたという形になります。

【会長】はい、ありがとうございました。基本はQRコードを読み込んで、オンラインで全部やっていくということですね。養護学校は違うということですが、

【事務局】基本はQRコードで、答えていただくということで、QRコードをお知らせするご案内を送らせていただいた形になります。

【会長】関連しますので続けて。やはり回答率が低いかなということを思いまして、精度を高めるには回収率を上げることが必要ですが、他の自治体なんかをみますと、こども若者計画ということで、かなりボリュームが増えている傾向にありまして、必要だからということで入れていくと、とんでもない数になって、誰がこんなにたくさん答えるのとなります。今日はそのあたり何も出ていないですが、質問の立て方、聞き方、他のアンケートからある程度把握できることは避けていくとか、かなりそのあたりを丁寧にやらないといけないと思います。例えば他のアンケートで取れるようなところは、項目として避けていこうとか、そのような作業はしていただいているのですか。

【事務局】おっしゃっていただいたように、保護者向けアンケートはニーズ調査の量だけでもかなりのボリュームになっております。こども大綱と7つの計画が入っておりますので、それぞれの計画で聞きたいことと入れると、相当な量になってしまいますので、そのあたりは関係課の方で、取捨選択させていただいたのと、こども大綱の指標についても、全国学力調査であるとか、定期的に取り替えているアンケートの方で、似たようなものについては、のぞかせていただく形にしております。このアンケート自体は逆に言うと5年に1回しか取れませんので、毎年取っているアンケートの方が経年的に追っていけるということもありますので、そのあたりは検討しているところであります。

【会長】はい、ありがとうございます。もしできればなんですけど、新しくできたアンケートを送っていただく時に、前回のアンケートの比較はなかなかできませんけど、質問数がどうであったとか、回収率がどうであったとか、そういう基本的な情報も教えていただけるといいかなと思います。難しいですか。

【事務局】メールの本文に付けさせていただきますので、ちょっと長い文章になるかもしれませんが、お読みいただければと思います。

【会長】はい、なるべく短くお願いします。

【事務局】はい、心掛けます。

【会長】やっぱり質問項目を増やしていくってことは、回収率がこれ以上低くなると難しいなということもありますので、ちょっと意見させていただきました。他いかがでしょうか。本来は、委員それぞれのお立場で、この質問はどうだとかいう話ができないので残念ですが、じっくりと送られてきた内容を検討いただければと思います。

【委員】質問というか確認です。すでにもしいただいていたら申し訳ないです。アンケートの結果は、いただけてますでしょうか。

【事務局】既に行った実態調査は、第2回の会議だったと思いますが、かなり膨大な量で付けさせていただきました。もしお手元がないようでしたら、データなり遅らせていただくこ

とは可能ですので、またおっしゃってください。

【会長】アンケートの方も、ほぼ決まってきたのでしょうかから、変更も難しいのかなとは思いますが。

【事務局】聞き方とか、答えにくいとか、アンケートの項目の順番とかもそうなんですけど、スムーズに答えていただけるようにとは思っているんですけど、実際に見ていただいた時に、これちょっと答えにくい、この順番だとわかりにくい、そういうところもお聞かせいただけるとありがたいです。

【会長】せっかくですので、加えて、こういうところを見てほしいとかありますか。順番、聞き方、あと何かありますでしょうか。

【事務局】ちょっとこんなこと聞くのとか、センシティブと言いますか、なるべくそのようなことは除いていますが、どうしても行政のメガネがかかっておりますので、そのあたりの感覚等も教えていただけるとうれしいです。

【会長】ちょっとこういうこと聞かれても答えられないよと感じられるようなことや、個人情報に関わること、特にこれ違和感あるなと感じるようなものは、是非ご意見いただければと思います。

【事務局】特に就学前は本当にボリュームがありますので、一定絞っているつもりですけど、この質問は省略した方がいいのではないかと、中にはもちろんはずせない質問もありますが、そのあたりも見ていただければなと思います。

【委員】アンケートの対象が1,500人となっていますけど、これは実際に市内の何パーセントぐらいの方に質問を送ることになるのか教えてください。

【事務局】資料には1,500人と書いてありますが、回答率が下がっている現状もありますので、2,500人ぐらいに増やせたらと思っております。幼児課にお聞きしておりますと、園に通っておられるお子さんが3,700人ぐらいいらっしゃるということです。世帯でみるとどうなるのかということもありますので、正式な数については、これから抽出して把握することになります。もしかしたら2,500人までいくとかなりのパーセンテージになる可能性がありますので、これから精査をさせていただくところです。

【委員】就学の方も何パーセントとかわかったりしないですか。

【事務局】こちら世帯というところで、数を拾ってみないとわからないので、今お答えできません。

【委員】市内のいろんなエリアの小学校を通じて、例えば市内の半分の小学校の方をお願いするとかそういう形になるイメージでしょうか。

【事務局】小学生がいらっしゃる親御さんを、こちらで無作為に選んで、アンケートにご協力くださいという案内を一斉に郵送する形になります。

【委員】ヤングケアラー調査のことです。基本的には、保護者さん、小中高校生の当事者に答えていただくものだと思いますが、その子や周辺を見ている先生等学校関係者とか、そういうところの声を拾うというようなことはありますか。というのは、うちの子がヤングケ

アラーなのかもしれないとか、こども自身がヤングケアラーだと、なかなかそういうことは答えてくれるのかなという疑問があります。気づいていない可能性もあるのかなと思っていて、周辺の人々の声を聞くことも大事なのかなと思ったりしました。

【事務局】アンケートについては、こどもさんご本人にということだと思います。学校の先生方については、日頃から気になるご家庭等については、相談していただく体制が一定整っていると思っております、そのあたりでアンケートの状況も見ながら、ご相談させてもらって、対応については検討していく予定となっております。

また、こどもさん自身がヤングケアラーだということについて、気づきがないということも実際にありますので、アンケートの中では、そういうことについても知っていただく、気づいていただくことを考えております。あとは教育委員会と詰めながら進めてまいりたいと思います。

【会長】はい、今のやり取りをちょっと整理しておきたいんですけど、ヤングケアラーのこどもに対するアンケートじゃないですよ。さっき、その子に対してのアンケートだとお答えになったような気がしたのですが、そうじゃないですよ。小学生、中学生にアンケート項目をとる。ご回答のとおりだと思いますが、本人には自覚はないけれども、どう考えてもヤングケアラーに入るよってところを明らかにしていく調査ですよ。

【事務局】はい、そうです。生活実態調査のような形でさせていただきます。

【会長】そこだけ、確認したいなと思っただけです。はい、それでは、またアンケート項目については、具体が出てまいりますので、他の自治体でもありましたが、えっこんなこと聞いていいのとか、本当に率直に感じられたことは、ご意見としてお願いしたいなと思います。

それでは（３）のブラッシュアップ部会についてと、関連がありますので、ワークショップ～ライフステージごとに大切にしたいことを考えよう～について、事務局からご説明お願いできますでしょうか。

～事務局説明資料③～

～ワークショップ～

【事務局】それぞれの主人公において、大切にしたいこと 3 つの発表を各グループからお願いします。

【小学生はなグループ】①忙しくて時間がなくて、疲れちゃってる・・・②人とつながれる場所があるといいんじゃないか、③あそびを知らない子が多いのではないかと、です。「遊ぶ場所がないから楽しくないのか」が一つポイント。具体的には、忙しくて時間がなくて疲れてしまっというのが今の子に多い。遊びたいことがない、遊び方を知らない子が多い。遊び方やルールを教えてくれるお兄ちゃんやお姉ちゃんにつながれる場所があるといいんじゃないかと考えました。

【3歳男の子グループ】①長いスパンで関わる（見守る）。この成長段階は短期ではわから

ない。②何かが起こる前に専門商が関われる仕組み、③「安心して子育てできる」生活のサポートです。

【高校生こころグループ】基本的に長浜はイケてないと思っていて、都会に出たいと思っている。①移動手段がないかも。基本的に高校生は自転車しかないが、長浜は広くてこども達だけでは移動できないことから不自由さを感じている。②パパとママと本音でそういう話が出来ていないのではないかと。③長浜の情報を知らないのではないかと、仕事とか人とか。インスタとかを見てると思いますが、基本的に自分が興味のあるものしか見ていないので、なかなか長浜の情報を知らないのではないかと、仕事についてもこども本人と親もあまり知らないから選択肢が少ないんじゃないかと思いました。

【大学生朝子グループ】80歳の祖母の介護をしながら大学に通う、心やさしい性格の大学2年生の女の子です。①本人がどんな支援があるか知らないのではないかと。②もっと早い段階、大学ではなくて、中学高校の段階で見つけられたのではないかと。③支援を求めやすい、声をかけやすい場が必要、という課題が出ました。

【子育て世帯長浜萌子グループ】ラーメン店のパートをされるお母さん。子どもは不登校でフリースクールに通っているという状態の子育てで、今何が問題なのか。①学校とか、いろんな特別支援があり、フリースクールも一つの選択肢だが、費用が無茶苦茶高くて、その為に仕事が自由に選べない、②自分のしたい仕事が出来ないことが課題。こどもの為にいろいろと親の仕事の選択肢が狭まってきている、ライフスタイルに合った仕事が出来ない。③不登校でフリースクールに行っているが、不登校自体は問題行動ではない。その子の想いをしっかりと聞くことが大事なのではという話をしました。

【高校生さやグループ】山奥に住んでいるひとりっ子。お父さんお母さんと暮らしています。さやさん自身は部活も勉強もすごく頑張っているけど、自分の気持ちについては少し表に出しにくい、親子関係もそういう状態。①性のこととか親になる事にもどうなのかなと、自分が育ってきている中で気にしているが相談できないところがあるので、そのことについて話せたりとか、喋ったりする場が、今も学校にもあるが、十分ではないので、そのあたりで学んでいける場があると良いのではないかと。②高校2年生ということで、夢とか進路とかですごく悩みがあると思う。自分の気持ちを出しにくい女の子なので、少し気楽に話せる人であるとか、場であるとか、いろんな体験談を先輩に聞いたりする等の支援策があると良いと思う。③山奥に住んでいるので片道一時間かけて自転車で学校に通っていることもあり、行きたいけれども、送ってもらえない所もあり、アクセスが悪いところで諦めてしまっているところも塾を含めてあるので、リモートの利用であるとか他の方法がとれればよい。

【事務局】ありがとうございました。素晴らしい問いかけをみなさんでしていただいて。ちょっと時間がオーバーしているので、みなさんからコメントをいただきましたのですが、副会長から今日のまとめをしていただければと思います。

【副会長】最初のあいさつで言っていただいたように、私もいろんな会議に出ていますけど、こんな面白い会議はそんなになんかと思っています。前のワークの時から実際の人をイメ

一ツしながら今どういう事が問題になっているかと考えるというのは、すごく大切だなと思いました。今ちょっと短い間、みんなで意見を出し合っただけで、こんなに沢山の問題が出てきて、今日、こうなったらいいのではないかとか、解決のところまで話が少しずつできてきたので、またこれは解決するのですか？次に解決できたらよいなと思いました。ありがとうございました。

【事務局】会長、お願いできますか。

【会長】ありがとうございました。多様な価値観が再認識できる会議かなと思いました。今まで私達がそれぞれ持っている価値観で、例えばここだったら不登校は悪いことだよとか、何々はよいことだよとか、そういう先入観から解放されて、もう一度、物事の本質を見直していくことがとても大切なんじゃないかなということを、こういう会議に出ると改めて感じます。是非、積み重ねていただければと思います。ありがとうございました。

【事務局】ありがとうございました。副会長から今後の話もしていただきましたけれども、来年度もブラッシュアップ部会をお願いすることになります。今回、出た意見が問題のたたき台になっていると思うので、これをどうしたら解決できるのかという形に、まずHow might we questionと言うそうです、ブラッシュアップしながら解決策についても出していただけるとなっています。では、今日のワークは以上となります。

【会長】ありがとうございました。最後に事務局から（５）その他について説明をお願いします。

～事務局説明資料5～

【事務局】早くも今年度最後の未来こども若者会議となりました。委員のみなさんの任期はまだありますが、団体からの選出で来ていただいている委員の方には、団体に来年度の委員さんの選出をお願いすることになります。今年度来年度は計画策定に向け関連がありますので、できれば同じ委員さんに引き続きお願いしたいと思っております。もし、母体の団体から来年度の委員について聞かれたら「是非やりたいです」と言っていただくと大変ありがたいですというお願いです。

【会長】質問は大丈夫ですか。ありがとうございました。それでは、これで議事は全て終了となります。時間のびてしまいました。しかし充実したワークありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

《閉会》

【事務局】ありがとうございます。少し時間は伸びてしまいましたが、ワークありがとうございました。会長、副会長からコメントいただいたとおりに思っています。今回のようにこどもまんなか社会をみんなで考えていくこの流れを、しっかりと積み重ねていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

それでは第 4 回の会議を閉じていきたいと思います。このメンバーでは最後ということになりますけれども、継続していただくと大変ありがたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

では最後に、今日このような場を作っていただきましたみなさまに感謝と、これからも一緒に活動していければ嬉しいなという思いを込めまして拍手で終わりたいと思います。ありがとうございました。